

VI 調布なないろ児童福祉施設

第1 総括

1 調布なないろ保育園

調布市は、平成24年に策定した「調布市保育総合計画」において、平成30年度までを7か年計画として保育の多様化と、量的拡大を図ることを目的とし、待機児童の解消を掲げてきた。しかし、毎年のように新設園を設置しても、平成27年度、平成28年度ともに依然として300人近くの待機児童を排出した。

待機児童解消のために、市内で新設園が増設され続けることで、有資格の保育士の確保が困難となり、保育士の職場離れを防止するために働きやすい職場の構築はさらに必然となった。

また、その一方で、次代を担う子ども達が健全に育つよう、子どもと家庭における子育てを応援する保育の質の向上が保育園に求められてきた。本園は、園児の保育時間が午前7時から午後8時までと長く、多様化する保護者の就労状況を応援してきた。

保育実践では、乳児保育、幼児保育で目標を立て「育てたい子ども像」を明確にし、それぞれの家庭にニーズを調査して各家庭に合わせた保育を実践した。

特に「父母の会」が設立していない本園で、保護者と子どもの成長や園の様子をどのように共有していくかを問題提起し、各「クラスだより」等の発行物の増加による情報提供や、園に来て、子どもの成長や課題を子どもと触れ合う中で確認し合う「保育参加」を実施した。保育参加は好評で、年間で延べ107家庭以上の参加があり、家庭と園とで子どもの育ちを共有することに繋がった。

また、地域に向けた子育て支援も活発に実施し、妊産婦を対象にした「マタニティサポート」や子育て家庭を対象とした「園庭開放」、また発達センターに通う障がい児の定期的受け入れ等を実施し、地域の子育て拠点となるべくまい進した。特に独自事業である「一時保育」は、定員の5名が予約ですぐに埋まってしまいう状況であり、保育園に入れなかった就労家庭の援助や、子育て支援家庭の手助けに大きく貢献してきたと自負している。

今後も、子どもや家庭の幸せを一番に願い、地域に選ばれる保育園を目指して積極的に取り組んでいく。

2 学童クラブ

平成27年度から、調布市立なないろ学童クラブが、待機児解消のため、調布市立なないろ第1学童クラブ、第2学童クラブに分かれ、70人定員からそれぞれ定員を50名、40名と増やした。また、調布市内の学校内にある学童クラブを受託することとなり、調布市立第三小学校学童クラブ、調布市立多摩川小学校

学童クラブを加え、従前より受託していた調布市立わかば学童クラブを含め学童クラブは5施設となっている。

平成27年4月に子ども子育て関連3法の施行により、学童クラブの対象児童が『おおむね10歳までの児童』から『全小学生』となり、受託した学童クラブでも小学4年生や小学5年生の入会があった。

多摩川小学校学童クラブ、第三小学校学童クラブにおいては、設置基準の一人当たり1.6㎡にはおよばない狭隘な室内のため、遊びも制限されることも多かった。「室内では走らない」などの約束事の徹底により室内での事故はなかったが、今後抜本的な対策の必要性を調布市に訴えていく。

3 放課後子供教室事業「ユーフォー」

東部地区2か所（緑ヶ丘小学校、若葉小学校）、西部地区5か所（石原小学校、第三小学校、多摩川小学校、飛田給小学校、富士見台小学校）の放課後子供教室事業「ユーフォー」を運営した。

調布市放課後子供教室事業「ユーフォー」は、平成27年度からは放課後からの開設となり、土曜日や三季休業などの学校が休みの日（日曜日、祝日除く。）は午前8時から午後5時までの開設となった。そのため、お弁当を持参し、昼食を食べられるようになり、長時間利用する児童が多くなった。ユーフォー事業は、全ての小学生が無料で参加でき、好きなときに行き、好きな遊びを選べる『屋根のある公園』をイメージした事業であったが、学童クラブの受け皿的要素も強くなり、利用人数も前年に比べ、7ユーフォー全体で7,382人増加している。

当法人の運営する2か所のユーフォーは、学童クラブと併設しているため、その特性を生かし、職員間の意思疎通に努め相互協力をしながら円滑な事業運営を図った。

第2 経営実績

1 定員

(1) 調布なないろ保育園

(単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	14	20	20	20	20	100
実数	9	14	20	21(2)	20(1)	21	105

※ 括弧内は、障がい児の受入れ数

(2) 調布市立学童クラブ

(単位:人)

施設名	定員
なないろ第1学童クラブ	50
なないろ第2学童クラブ	40
わかば学童クラブ	70
第三小学校学童クラブ	60
多摩川小学校学童クラブ	60

(3) 放課後子供教室事業「ユーフォー」

全在籍児童対象の事業で、登録制のため定員はない。

2 利用率

(単位:%)

事業名	平成28年度実績	平成27年度実績
調布なないろ保育園	105.0	106.0
学童クラブ	92.0	91.4
放課後子供教室事業「ユーフォー」	64.6	64.4

※ 放課後子供教室事業「ユーフォー」は登録率

3 人件費率

(単位:%)

区分	平成28年度実績	平成27年度実績
調布なないろ保育園	73.1	71.7
学童クラブ	86.5	87.3
放課後子供教室事業「ユーフォー」	84.2	87.9

※ 事業活動計算書から算出

第3 事業所別事業報告

1 調布なないろ保育園

(1) 重点事項への取組

ア 健康でよく遊ぶ子（乳児クラス）

家庭での休日の過ごし方が大人や兄弟の生活に付き合わされることが多く、週明け園に来ると疲れていたり、生活リズムが乱れていたりする子が多くいた。そのため、個々の子どもの様子に合わせて休息や活動の工夫を行うと共に、保護者と相談しながら家庭での生活スタイルを改善してもらえるよう働きかけた。

また、這い這いやつかまり立ちなどの発達段階を飛ばして、立ったり歩いたりする子が転びやすかったり、転んでも手がでない状況を受けて、自分の身体を自分自身でコントロールできるように育てるため、乳児会議の中で話し合い、定期的なリズム遊びや障害物を取り入れた園庭遊び等を楽しんで行って身体の発達を促した。

さらに、食育にも着眼し、離乳食の導入から家庭と連携を取って、食が順調に進んでいくよう支援をした。手が汚れることが嫌で手づかみ食べが出来ない子や、自分で食べようとしない子が多かったが、日頃から給食の下準備である野菜ほぐしや、乳児クラスなりの栽培活動を取り入れ、丁寧な食事指導を積み重ねたことで、食べることへの興味に繋げることができた。

イ 自分で考え行動できる子（幼児クラス）

子どもが自己肯定感を育むために、日々の保育活動や行事、また友達とのやり取りの中から成長や頑張りを認めてきた。しかし、成功体験だけではなく、失敗した時や友達と喧嘩をした時こそ心が著しく成長していくので、保育士は子どもの気持ちに寄り添いながら丁寧に対応した。

また、自分に自信が持てない子や、気持ちの不安定な子の援助には保護者と状況を把握しながら幼児会議等で情報を共有し合い、その子に必要な援助が皆でできるよう心がけた。特に、就学を控えた年長児は、年間を通した活動内容や、子どもに必要な体験を明確にし、友達と必然的に関わり合う体験や自ら考え意見を出し合う経験をふんだんに取り入れて保育を行ってきた。バディを組んで励まし合った高尾山稲荷山コースの登山、種もみから始めた米作りでは、「協力すること」「食べ物を作る大変さ」を直接学んだ。

また、外部講師に依頼しているお茶指導や太鼓指導でも、指導内容や体験時期のタイミング等を講師と担任とが細かく打ち合わせをして実施した。丁寧な保育実践を積み重ねたことで、年長クラスの雰囲気や年中や年少クラスにも波及し、子ども達が相互に成長し合う姿が異年齢保育の活動でも見られた。

ウ 保護者の子育て支援

保護者の就労による社会的役割が進む一方で、「子どもへの接し方に自信が持てない」「生活習慣をどのようにつけばよいのかわからない」等、子育てに不安を抱える家庭が増加してきた。年度初めに毎年行っている保護者の子育てアンケートでは、「身近に育児の相談ができる相手がいない」と手助けを求める保護者もあり、園が一家庭ごとに丁寧な育児相談が実施できるよう、個人面談時期を見直したり、保育参加を実施したりして、子どもの成長過程を共有できる機会を増やした。保育参加は年間で107家庭以上の参加があり、子どもだけでなく、保育園の様子を知ってもらうことが園への信頼感にも繋がり、東京都福祉サービス第三者評価利用者調査でも「大満足」「満足」と合わせて88.9%と高い評価を受けた。

(ア) 一時保育事業

一日5人を上限とし、登録制で地域の子を対象として実施した。保護者の就労による利用やリフレッシュ、受診での預かりが多かった。ほとんどの子が乳児で、日頃から幼稚園に在籍している子の利用は長期休暇中であったが、中には在籍する保育所が、一時保育事業を実施していないため、日曜、祝日のみ本園を利用する家庭もあった。

(単位：人)

	一時保育延べ利用児童数												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
4時間未満	18	39	20	29	20	17	21	26	24	27	40	27	284
4時間以上	51	15	47	43	49	48	45	50	47	42	50	75	586
合計	69	54	67	72	69	65	66	76	71	69	90	102	870

(イ) 地域交流事業

就学前の親子を対象に保育園体験を実施し園児との交流を図った。保護者の参加を目的としているため、園児との触れ合いだけでなく、子育て相談や保育園見学を兼ねる事も多く、参加を経て一時保育事業へ登録し、定期的に園を利用する家庭も多かった。

(単位：組)

保育園体験	参加者	保育園体験	参加者
4月26日	1	10月18日	5
5月17日	2	11月15日	3
6月14日	3	12月20日	3
7月5日	4	1月17日	5
8月		2月10日	5
9月13日	0	3月14日	9
		合計	40

(ウ) マタニティサポート

出産を控えた妊産婦や、出産後間もない親子を対象に、0歳児クラスを体験しながら乳児の育て方や子育て相談、また離乳食の作り方、進め方を伝える会を定期的実施した。

(単位：組)

実施日	参加者
4月27日	1
7月27日	6
8月2日	6
9月30日	2

エ 食育

子どもの食を取り巻く環境が変化する中で、乳幼児期からの適切な食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の育成など、心身の健全育成を図ることの重要性が増している。本園では「楽しく食べる子ども」を目標に、栄養士や調理員が中心となって、食育の月の目標を立て実践した。目標の達成に当っては、活動計画を具体化し、活動の反省を会議の中で報告したり、次回の活動に反映したりした。

また、「楽しく食べる」中でも、食材や給食を作ってくれる人への感謝の気持ちや、バランス良く食べる事の大切さ、さらに、実際に食材を育てる栽培保育を通して、「食物を作ることの大変さ」を子ども達に丁寧に伝えた。

年度後半は、年長児が三食食品群の知識を基に、グループ毎に献立作成したメニューが給食で実現し、自分達で考えた給食を食べる事ができ大きな自信となった。

特に、アレルギー児が行事食を除去せず、他児と同じ献立を食べる喜びを伝えようと、「仲良し献立」と名付けて取り組めたことは、子どもはもちろん、保護者や保育士にとっても大きい喜びであった。

以上のような様々な経験をとおして、子ども達が積極的に配膳の手伝いなどにも参加し、給食の残菜もほぼ無くなって、豊かな食育経験へと繋げる事ができた。

(7) 特別食と郷土食

月	特別食	郷土食	
5月 子どもの日	中華おこわ		

6月	あじさいゼリー	九州地方	長崎天ぷら さつま汁
7月	七夕そうめん		
9月 防災訓練	非常食	北海道地方 東北地方	鮭のチャンチャン焼き じゃがバターソテー けの汁
10月 ハロウィン	かぼちゃのパウンドケーキ	沖縄地方	サーターアンダギー
12月 冬至 クリスマス	かぼちゃの煮物 バイキング		
1月 お正月 鏡開き	七草粥 白玉汁粉		
2月 節分 バレンタイン	鬼っ子ご飯・つみれ汁 恵方巻き風サンド ココアクッキー	沖縄地方	タコライス 人参シリシリ アーサ汁
3月 ひな祭り	飾り寿司・花麩汁		

(イ) 食育活動

5月	だしの飲み比べ (5歳児)	12月	クッキー (3歳児)
6月	フルーツ白玉 (4歳児)	1月	鯛の手開き (5歳児)
6月	野菜スープ (5歳児)	1月	ミニおにぎり (4歳児)
7月	ラップゼリー (5歳児)	2月	餃子の皮の包み揚げ (3歳児)
9月	クッキー (5歳児)	2月	小松菜と大根の味噌汁 (5歳児)
10月	ピザ (5歳児)	3月	さつまいもドーナッツ (4歳児)
11月	五平餅 (幼児クラス)	3月	白玉黒蜜きな粉 (3歳児)
11月	スウィートポテト餅 (5歳児)	3月	クッキー (5歳児)

※ 日々の保育の中で野菜の皮むき・おにぎり作りを実施

※ 米とぎ・炊飯…5歳児

オ 保健報告

(7) 健康管理

保護者が園児の健康状況を記入した児童票と健康カードから、子ども

の健康状態・既往歴・予防接種状況・平熱等を情報収集した。その情報を各クラス毎に一覧表にしてそれぞれの健康状態を把握した。

日々の受け入れ時では、0歳児クラスは登園時に検温を行い、保護者から前日帰園後の家庭状況を丁寧に聞き取り、異常の早期発見ができるように努めた。その他のクラスも連絡帳や保護者からの伝達を受け、子どもの健康状態を把握するよう働きかけた。

川崎病の診断を受けている子は、その後の経過や受診頻度について保護者へ状況確認し健康状態の把握を行った。

今年度、呼吸状態が悪化し精査加療目的で入院した子がいた。その保護者のメンタルケアを行うと共に、入院中の病状や経過等保護者から適宜情報収集し状態把握に努めた。退院後の配慮事項（園での対応等）について、保護者と密に話し合いをし、対応をした。そのことをクラス担任とも情報共有し、異常の早期発見・対応が出来るよう働きかけた。その後、定期的に通院し喘息との診断がついたが、呼吸状態も安定し園生活を送ることが出来ている。

また、アトピー性皮膚炎・喘息の既往がある子の保護者に適宜声かけをし、受診頻度・経過など聞き現状把握したり自宅でのケアの方法を伝えたりした。

食物アレルギー児の保護者とは負荷試験の日程や結果などを詳しく情報収集した。今年度からエピペン（アドレナリン注射液）を預かる事となり、万が一に備えて、園内研修を月に一回、乳児会議、幼児会議で行った。

さらに、年4回の調布市民間施設看護師会で得た情報や、市内の感染症状況、園内で流行している感染症等を、玄関入口にある保健ボードや保健だよりに掲示して保護者へ知らせた。

職員の健康管理については、健康診断の結果に応じ、専門的な検査ができる病院を紹介し再検査が受けられるように手配した。その結果異常は認められず、今まで通り業務に就くことができています。

【感染症罹患状況】

(単位:人)

インフルエンザ	22	突発性発疹	7
水痘	1	手足口病	11
胃腸炎	26	プール熱	1
溶連菌感染症	5	ヘルパンギーナ	10
RS ウイルス	1	アデノウイルス	1
流行性角結膜炎	2	耳下腺炎	1

マイコプラズマ肺炎	1	アレルギー性結膜炎	1
中耳炎	1	痙攣	2

※痙攣の内訳：熱性痙攣1人 胃腸炎関連性痙攣1人→入院

(イ) 受診ケース

安全チェック表の活用が定着してから、環境因子が要因のケガは1件もない。転倒し、手が出ないことによる自己のケガが多く、今年度から口腔内のケガは、軽傷であっても全て受診対象と調布市民間施設看護師会で取り決められたため、前年度と比較し受診ケースが増加した。

また、食物アレルギーを持つ4歳児1人がエピペンを保有することになり、園内研修で定期的にエピペン講習を行い、万が一の時に対応できるよう努めた。アレルギー対応マニュアルも定着してきて、誤食等のインシデントを起こすことなく対応出来た。

さらに、日々のインシデント・アクシデントのデータを安全対策係が中心となり毎月集計し、その結果を職員会議や朝礼で周知して、再発防止に努めるよう働きかけた。その結果大きな事故やケガをすることなく過ごすことが出来ている。

	性別・年齢	項目	受診先
4月6日	3歳児男児	ブランコにぶつかり口腔内受傷	歯科受診
5月31日	5歳児女児	他児の持っていた玩具とぶつかる	歯科受診
5月31日	5歳児男児	他児と喧嘩になり口腔内受傷	歯科受診
6月21日	4歳児男児	他児とぶつかり口腔内受傷	歯科受診
6月30日	5歳児男児	他児とぶつかり口腔内受傷	歯科受診
8月10日	5歳児女児	転倒し口腔内受傷	歯科受診
8月15日	1歳児男児	玩具に躓き転倒口腔内受傷	歯科受診
10月4日	3歳児女児	転倒し口腔内受傷	歯科受診
10月7日	4歳児女児	遊具から転倒し後頭部打撲	脳神経外科受診
10月24日	1歳児男児	転倒し口腔内受傷	歯科受診
10月25日	2歳児女児	他児ひっかきによる擦傷	眼科受診
10月31日	5歳児女児	転倒し口腔内受傷	歯科受診
11月22日	5歳児男児	他児に足を踏まれ打撲	整形外科受診
2月14日	1歳児男児	棚にぶつかり口腔内受傷	歯科受診

(ウ) 検査

	時 期	結 果	その後の処置
ぎょう虫検査	5 月	全員陰性	無し

※ 幼児クラスは10月、11月に視力検査実施

(エ) 救命救急再講習及び乳幼児心配蘇生（CPR）講習

普通救命再講習を8人受講した。また、次週の保育活動を決定する週案会議の時に事故状況を設定して乳幼児の心配蘇生訓練を行い、緊急時に対応できるよう取り組んだ。その結果、ほとんどの職員が手法を取得した。

カ 避難訓練及び防災対策

月1回以上の避難訓練だけでなく、土曜日、遅番時の訓練を実施した。

また、災害時に備え、園内のBCP（事業継続計画）訓練を管理職不在の想定で実施した。

さらに、発電機、簡易トイレの設置方法、非常食の保管方法を全ての職員で点検、確認を行った。また、模擬消火器を使用した消火訓練や普段使用しない非常用滑り台を活用した訓練等を実施し、万が一災害が起きても速やかに対応できる技術を身に付けた。

(2) 実績報告

ア 園児の受け入れ状況

月別の園児受け入れ状況は、次のとおりである。

(単位：

人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	4歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	3歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	2歳児	20	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	239
	1歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	計	105	105	105	105	105	104	105	105	105	105	105	105

イ 年間行事報告

一年間に実施した行事は、以下のとおりである。

月 日	項 目	内 容
4月1日	入園式	24人の新入園児を迎え園内で和やかに会を実施した。職員が劇仕立てでクラス紹介を行ったり、年長児が作ったメダルをプレゼントしたりし、新入園児や保護者は喜んで参加していた。
5月26日	春の遠足（3歳児）	近隣の「若宮自由広場」に遠足に出かけた。シャボン玉や虫探しを行いながら友達同士の関係を深めた。広場で充分に遊び、園に帰ってから保護者の作ってくれたお弁当をシートで広げて食べ、どの子も初めての経験を喜んでいた。
5月27日	春の遠足（4・5歳児）	京王フローラルガーデンアンジェに徒歩遠足に出かけた。オリエンテーリングを4、5歳の異年齢でペアを組んで取り組み、自然に触れる中で異年齢の関わりを楽しんだ。
7月9日	夕涼み会	生憎の雨天で、外での開催が出来ず、園内で実施した。1階と2階とにコーナーを設置し、園内の順路をあらかじめ決めて開催したので、大きな混乱もなく、保護者も園児も夏のひと時を満喫した。
8月7日～8日	お泊まり保育	年長児が園庭に4張のテントを設営し、その中でクラブ製作をおこなったり、外でマシュマロを焼いたり、カレー作りをしたりして楽しく過ごした。一晩泊まれた事が大きな自信となり、「またお泊り保育がしたい！」と充実感に溢れていた。
9月9日	おじいちゃん、おばあちゃんと遊ぶ会	園児と祖父母が、園内に設置した製作やゲームコーナーなどを一緒に楽しみ交流を深めた。残念ながら当日祖父母が出席できなかった子ども、友達の祖父母と屈託なく関わり、和やかな会となった。
10月11日	運動会	ももとの予定日が秋の長雨で延期となり、平日に実施したが、ほとんどの保護者が応援に来てくれた中で開催ができた。日頃の運動遊びの成果を披露するとあって、緊張した面持ちの子もいたが、競技を終えるとやりきった喜びと自信に溢れ、成長を実感する会となった。
10月20日	秋の遠足（3・4歳児）	都立昭和記念公園にバスで出かけた。子ども達は事前から交流を深めてきた異年齢のグループに分かれて行動し、友情を深めた。公園ではコスモスや銀杏など、秋の自然を楽しむ事ができた。
10月21日	秋の遠足（5歳児）	遠足事前に高尾山自然観察員の方に園に来ていただき、自然観察の仕方をレクチャーしてもらっていたので、高尾山登山の期待は大きく、友達同士励まし合いながら、全員が登頂する事ができた。この経験を通して、子ども達が「友達と協力すること」を学んだ。
11月8日	芋掘り散歩	近隣の越山農園に薩摩芋掘りに出かけた。畑の土に思い切り触れる機会が少ないので、子ども達は土や芋や虫と格闘しながら大きい芋を掘り当てようと必死だった。家庭へのお土産にそれぞれ持ち帰り、収穫を皆で喜んだ。
11月9日	焼き芋会	前日に収穫した薩摩芋を炭火にくべて、焼きあがりを園庭で食べた。炭火を起こす様子から興味深く見守り、焼き立ての芋を大喜びで頬張り、おかわりをたくさんしていた。

12月16日	餅つき会	臼や杵を使って餅つきをし、鏡餅を作ったり、雑煮を食べたりして新年を迎える準備をした。子ども達が作った鏡餅を、自分達でご近所に配ってまわり、大変喜ばれた。
1月6日	新年を祝う会	正月の意味や成り立ちを職員がわかりやすく伝えた。 また、コマ回しや羽子板などの正月遊びを楽しみ、新年を皆で迎えられた事を喜び合った。
2月3日	節分の会	節分の意味を子ども達に伝えながら豆まきを実施した。 鬼の動きを決めずに豆まきを行ったので、子ども達は鬼に負けないよう必死で退治しようと奮闘していた。無事に鬼が退散すると、「春が来るね」と季節の変わり目を喜んだ。
2月12日	劇団「たんぽぽ」観劇	劇団たんぽぽによる「ともだちや」の物語の人形劇を観た。 幼児クラスは普段から親しんできた話なので、子ども達は内容に引き込まれながら最後まで喜んで楽しんでた。
3月16日	卒園式	当日は良い天気恵まれ、21人の門出を祝う晴れやかな会となった。0歳児から4歳児までのクラスの子も、年長児の生き生きとした姿に感動していた。小学校への就学を期待する子どもの姿は自信に溢れていた。
3月24日	お別れ散歩	卒園する年長児が、各クラスに分かれ思い出作りの散歩に出かけた。小さいクラスの子は、憧れの年長児と一緒に散歩に出かけられる事が嬉しく、終始甘えていた。年長児も、他クラスと出かける最後の散歩で充分思い出作りをした。
3月31日	進級式	新年度からの担任や退職する職員を知り、感謝や希望を持つ会となった。
定例	誕生会と伝統行事	七夕、ひな祭り、水開きなど、季節ならではの行事を、各クラスの成長段階に合わせて無理なく行った。 また、その月の誕生会では、命の大切さを取り上げ、その子の誕生カードの中に今まで大事に育てられてきたことを伝える保護者と保育士とのメッセージを入れた。乳児クラス、幼児クラスで別の開催とし、会の内容は担当保育士が工夫を凝らして、毎回子どもの興味にあった内容を計画した。

ウ 職員研修体系

「研修の状況」を体系別に表すと次のとおりである。

体系		内容 (下記の数字は、「職員研修の状況」の「No.」を表している。)	回数
一般 研 修	新任職員	1,17,26	3
	現任職員研修	1,3,4,5,6,8,9,10,11,13,14,15,18,19,20,21,22,24,26,27,28,29, 30,32,34	25
	副主任研修	12,21,23,25	4
	主任職研修	3,33	2
	副施設長研修	2,31,	2
	施設長研修	16	1

専門 研 修	保育士研修	1,2,3,9,11,12,13,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24,25,26, 27,28,31,32,33,34	26
	調理師担当職員研修	29,30,	2
	看護師研修	3,4,6,7	4
	事務職研修	8,10,	2
園内研修		研修報告	5
園内新人研修		接遇マナーについて・保育の方法について	4
研修参加合計		研修参加人数 合計 32人、延べ参加人数 36人	46

エ 職員研修の状況

研修への参加状況は、次のとおりである。

(単位：人)

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
1	5月9日	新任職員研修会	東京都民間保育園協会	3	3
2	5月23日	東京都の保育行政及び指導検査 研修会	東京都民間保育園協会	1	1
3	5月24日	ダウン症児の療育について	新日本医師協会	2	2
4	5月31日	保育園幼稚園園科保健研修会	東京都多摩府中保健所	1	1
5	6月2日	現場で役立つ盛り上がる遊び	調布市保育園協会	1	1
6	6月3日	小規模プール衛生管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
7	6月14日	環境保健衛生講習会	東京都健康安全研究セン ター	1	1
8	6月15日	算定基礎届事務講習会	東京都社会保険協会	1	1
9	6月27日	調布市子ども発達センター療育 見学会	調布市子ども発達センタ ー	1	1
10	6月28日	東京都社会福祉協議会従事者共 済会事務説明会	東京都社会福祉協議会	1	1
11	7月21日	保育と笑い 保育を楽しむため に今伝えたいこと	調布市保育園協会	1	1
12	7月25日	夏の芸術教室学校「幼児のための 絵画指導入門」	芸術教育研究所	1	1
13	7月28日・8月3日	特別支援教室「公開研修会」・「教 材研修会」	東京都立府中けやきの森 学園	1	2
14	8月4日	夏季セミナー	りんごの木	1	1

15	8月20日	発達障害基礎講座	田口教育研究所	1	1
16	9月8日	平成28年度秋季セミナー	東京都福祉施設士会	1	1
17	9月15日	多様な子どもたちの発達支援	調布市保育園協会	1	1
18	9月28日・10月25日	子どものアレルギー疾患研修	東京都健康安全研究センター	1	2
19	9月28日・10月19日・ 11月9日	中級認定講習	首都圏保育士スキルアップ協会	1	3
20	10月7日	「子育てハッピーアドバイス」～ 自己肯定感を育む子育て支援を 考える	調布市保育園協会	2	2
21	10月18日	第2回幼児期からのサステナビ リティ教育研究会	サステナブル・アカデミ ー・ジャパン	2	2
22	10月21日	子育て支援とストレスマネジメ ント	調布市保育園協会	1	1
23	10月24日	保幼小連携に関する研修会	東京都民間保育園協会	1	1
24	11月15日	子どものからだのおかしさを考 える	調布市保育園協会	1	1
25	11月19・20日	夏の芸術教育教室「保育ナチュラ リスト」	芸術教育研究所	1	1
26	11月30日	防犯講習会	園児交通安全防犯連絡会	2	2
27	12月6日	遊び歌・集団あそび	調布市保育園協会	2	2
28	12月9日	保育セミナー	東京都福祉協議会	2	2
29	1月13日	子どもと職員の成長を育む「食」 セミナー	日本保育総合研究所	1	1
30	1月27日	保育園給食研修会	調布市子ども政策課	1	1
31	2月1日	私立地区委員会主催研修	東京都社会福祉協議会	1	1
32	2月1日	母子健康協会第37回シンポジウ ム	公益財団法人母子健康協 会	1	1
33	2月2日	東京都社会福祉協議会保育部会 青年委員会主催セミナー	東京都社会福祉協議会	1	1
34	2月28日	第10回母子保健研修	東京都福祉保健局	1	1
研修参加人数合計 32人 述べ参加人数合計 36人					

2 学童クラブ

(1) 育成目標への取組

遊びや生活面において、自主性を養うため見通しを持って自分で考え行動することができるように、ホワイトボード等を利用し、タイムスケジュールを表記するなど視覚でも確認できるような環境設定を行った。行事や班会議を行うことで集団の中で自分の役割を見い出していけるよう、一人ひとりの意見を尊重し、社会性を育てていった。

(2) 重点事項への取組

登録児童対象学年の拡大に伴い各施設によって異なるが、今年度は1年生から5年生までの受け入れとなった。

遊びや工作面で、体力や技術の差があるため各学年に合わせた内容やプログラムにするなど考慮し、児童一人ひとりの個性を尊重し、発揮できる場を作るとともに、日々楽しく通えるような環境作りをした。

児童の心身に関わるケガや発病した際には、保護者に連絡するとともに、医療機関と連携し速やかに対応した。また、ヒヤリハット事例に加え全職員で情報共有するとともに、内部研修を実施し、日々迅速な対応できるよう努めた。東部地区、西部地区の5学童クラブの職員が集い、3グループに分かれて自主研修を行い、放課後児童支援員としての資質の向上を図った。

保護者とは、児童の様子や変化などを連絡帳やおたよりの発行を通して情報の共有を行い、保護者会や行事を行うことで保護者との交流も深めた。

年間で地震、火災、水害、防犯訓練等の避難訓練を実施した。(不審者訓練においては、調布警察署に協力依頼をし、どのようなところに危険性があるのか指導を受けた。)

障がい児及び要配慮児に関しては、児童の個性を把握し、一人ひとりに合わせた月目標を設定した。当該児童に関する情報を全職員で共有し、ノーマライゼーションを目指した。

障がい児・要配慮児受け入れ状況は次のとおりである。前年の12人に比べ3人の増加となっている。

(単位：人)

施設名	障がい児	要配慮児	合計
なないろ第一学童クラブ	3	1	4
なないろ第二学童クラブ	2	0	2
わかば学童クラブ	2	3	5
第三小学校学童クラブ	0	2	2
多摩川小学校学童クラブ	1	1	2

5学童クラブにおいて、近隣の児童館の児童館運営会議及び各地区協議会にも各学童クラブの管理者が参加した。また、東部児童館、西部児童館、多摩川児童館の児童館まつりに児童と保護者、職員が参加し、地域の一員として交流を図った。

(3) 実績報告

ア 児童の受入れ状況

月別の児童受入れ状況は、次のとおりである。

なないろ第1学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	1年生	9	9	9	8	8	8	8	8	9	9	9	102
	2年生	9	9	9	9	10	10	8	8	7	7	7	100
	3年生	20	20	19	19	19	18	18	18	18	18	17	222
	4年生	8	8	7	7	7	6	6	6	6	6	6	79
	5年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	47	47	45	44	45	43	41	41	40	41	41	40

※障がい児：1年生=1人 3年生=1人 5年生=1人

※要配慮児童：4年生=1人

なないろ第2学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	1年生	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	117
	2年生	10	10	9	9	9	9	10	10	11	11	11	119
	3年生	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	7	102
	4年生	2	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	8
	5年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	32	32	31	30	30	29	30	29	29	29	29	28

※障がい児：1年生=1人 5年生=1人

わかば学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	1年生	29	29	29	30	30	30	30	29	29	28	28	351
	2年生	19	19	19	18	18	19	19	19	19	16	15	215
	3年生	21	21	21	21	21	20	20	20	21	21	21	249
	4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	90
	計	70	70	70	70	70	70	70	70	70	67	65	65

※障がい児：3年生=1人 5年生=1人

※要配慮児童：1年生=1人 2年生=1人 3年生=1人

第三小学校学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	1年生	35	35	35	35	34	33	33	33	33	33	33	405
	2年生	14	14	14	14	14	15	15	15	15	14	13	172
	3年生	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	129
	4年生	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5
	5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	60	60	60	60	59	60	60	60	60	59	58	57

※要配慮児童：1年生=2人

多摩川小学校学童クラブ

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	1年生	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	275
	2年生	20	20	19	19	19	19	19	19	19	18	18	228
	3年生	17	15	17	16	16	16	13	13	13	11	10	170
	4年生	0	0	1	2	2	2	1	1	1	1	1	13
	5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	59	58	60	60	60	56	56	56	56	56	53	52

※障がい児：1年生=1人

※要配慮児童：1年生=1人

イ 児童の健康報告

(ア) 感染症

日々、消毒や手洗いうがいの励行、部屋の換気等注意をしていたが、児童の生活範囲は広範囲であり、流行を防ぐことはできなかった。今年度も各学校において学年閉鎖や学級閉鎖があった。

(単位:人)

	インフルエンザ A型	インフルエンザ B型	その他の感染症
なないろ第1学童クラブ	10	1	0
なないろ2学童クラブ	10	0	0
わかば学童クラブ	11	12	6
第三小学校学童クラブ	6	1	0
多摩川小学校学童クラブ	14	0	4

※その他の感染症には、マイコプラズマ肺炎・水疱瘡・おたふくかぜ・溶連菌感染症・アデノウィルス

(イ) 受診ケース

なないろ第1学童クラブ

月日	性別・年齢	項目	受診先
9月12日	3年生男児	育成室にてかるたで遊んでいた際、隣の児童のかるた札が右目に入った。	眼科受診

なないろ第2学童クラブ

月日	性別・年齢	項目	受診先
7月6日	3年生男児	屋上でサッカー中、他児童の顔が前歯に当たり欠けた。	歯科受診

わかば学童クラブ

月日	性別・年齢	項目	受診先
7月28日	1年生女児	登室時、小学校校門手前で転倒した際、左膝に5mm大の石が食い込んだ。	皮膚科受診
7月29日	1年生男児	育成室で他児に突き飛ばされ、後頭部を壁にぶつける。その後鼻血を出した。	脳神経外科受診
9月5日	3年生男児	館庭で飛んできたボールを手で受け止め、左手小指の腱の損傷。	整骨院受診
11月30日	3年生男児	館庭でサッカー中、足がもつれ転倒し、左膝の打撲。	整形外科受診
12月12日	2年生男児	学童クラブ玄関にて、迎えの際、扉に指を挟み、右手第四指の爪の剥離と骨にひびが入るケガ。	整形外科受診

第三小学校学童クラブ

月日	性別・年齢	項目	受診先
4月1日	1年生男児	初めての校庭遊びの際、校庭の縁石に数センチの段差に躓き転倒。アスファルトに鼻を打ち、鼻から大量に出血。鼻の骨折。	整形外科受診
8月16日	1年生女児	施設裏手で草むしりをしていた際、立ち上がろうとした時に空気構に頬をぶつける。角に当たった事で、腫れもひどく目の下であるため、受診。	整形外科受診
11月21日	1年生男児	校庭でサッカーをしていた際、ボールのキャッチに誤り、右手薬指の打撲。	整形外科受診

多摩川小学校学童クラブ

医療機関に受診するケースはなかった。

ウ 年間行事報告

(ア) 1年間に実施した共通の行事は、次のとおりである。

行事名	学童別開催月	内 容
親子交流会	なないろ学童 (5月・10月) わかば学童(5月) 第三小学童(6月) 多摩川小学童(11月)	各学童で親子交流会(ピクニック・親子遠足・ミニ運動会)を行った。なないろ学童は、多摩川河川敷や芋掘りへ行き、食の大切さに触れる。わかば学童は、神代植物公園自由広場にて親子で楽しめるゲーム遊びを行った。 第三小学童は、小学校の体育館を借り、運動遊びを中心に親子で汗を流し交流を深めた。多摩小学童は、父母会と共催でマジックショーとマジック体験を行った。
遠 足	わかば学童(1月) 第三小学童(10月・3月) 多摩川小学童(9月・3月)	わかば学童は、バスで「多摩六都科学館」に行った。 第三小学童は、10月に徒歩で「野川公園」へ、3月に電車で「国営昭和記念公園」に行った。 多摩川小学童は、9月に電車で「国営昭和記念公園」へ、3月に徒歩で「多摩川河川敷」へ行った。
保護者会	なないろ学童(6・7・3月) わかば学童(4・7・11月) 第三小学童(5・2月) 多摩川小学童(5・7・3月)	各保護者会とも、それまでの児童の様子や夏休みなどの長期の休みの過ごし方等を保護者に報告し、また、保護者からも家庭での様子を伝え情報交換を行った。
児童館交流事業	オセロ大会(11月) サッカー大会(1月)	調布市の児童館主催でオセロ大会とサッカー大会が開催された。 オセロ大会は、地域別の予選会を児童館で実施し、勝ちあがった児童が、本戦で文化会館たづくりにて、サッカー大会は、味の素スタジアムにて開催された。 各学童クラブは、大会の日に向けて練習を行い、わかば学童は、男子の部で準優勝に輝く。事業を通じて、努力をすることやチームワークの大切さを学ぶことができた。
学童クラブ交流事業	ドッジビー大会(2月)	調布市総合体育館で行われ、各学童とも結果を残すことが出来なかったが、児童館事業同様に、チームワークの大切さや日頃の練習の成果の大切さを知る機会となった。
学 童 ク ラ ブ、ユ ー フ ォ ー 交 流 会	わかば学童(7・10月) 第三小学童(12月) 多摩川小学童(6月)	学童クラブとユーフオー併設施設および隣接している施設が学童クラブとユーフオーの交流会を行った。 ドッジビー大会を行ったり、工作を行ったりし、それぞれの施設を利用している児童同士で交流を図った。

誕生会	全施設毎月実施	毎月、児童の誕生日にみんなで祝いする誕生会を行った。その児童が生まれた日ということで、生まれてきた喜びが、また、産んでくれた両親に感謝の気持ちが伝わるように企画した。
防犯・防火訓練	全施設毎月実施	年間の計画をもとに、各施設において防災訓練を実施する。ユーフォーと併設している第三小学童と多摩川小学童は、ユーフォーと合同で実施。避難経路や災害食を食べる経験なども各施設に応じて実施。 防犯訓練は、各施設的环境下に置いて適切な対応訓練を施設内で行い、調布警察署職員による指導を受けながら実施した。
進級式 お楽しみ会	全施設3月実施	1年間の集大成とし、年間の思い出を発表したり、児童が1年間身につけてきた事を発表したりする場としていく。なないろ学童、わかば学童、第三小学童は、保護者も参加。多摩川小学童は、児童のみで実施。

(イ) 1年間に実施した各学童クラブで行った主な行事は、以下のとおりである。

学童名	行事名	内容
なないろ学童クラブ (第1・第2合同)	世界にとどろけ！ななりんピック(8月)	オリンピックにちなんだゲームや体験コーナーを用いてなないろ保育園園児、第三小学童児童、多摩川小学童児童を招いた。
	リコーダー会	リコーダー演奏者による音楽鑑賞会。
わかば学童クラブ	隣の老人ホームに遊びにいこう(6月)	施設横の老人ホームを尋ね、交流を深める。1年生にとって初めての経験だったのでとても楽しんでいた。
	お泊り学童(8月)	3年生を対象としたお泊まり会。保護者の協力を得て、カレー作りを行い、朝はみんなで楽しんでいた。
第三小学校学童クラブ	お話会(7月から毎月1回実施)	伝統的な話に触れたり、人の話に耳を傾ける習慣として「お話会」を定期開催する。回数を重ねる事に子ども達の興味関心事項が増えてきている様子であった。
	歌庭コラボイベント(2月)	学校体育館を借り、ソプラノ歌手・庭師によるコラボイベント。
多摩川小学校学童クラブ	安全マップ(7月)	防災安全課の指導の下、通学路の危険な場所を知り、マップ作成をする。
	ライトプレーン大会	飛行機を作って校庭で飛ばした。

エ 職員研修体系

体系		内容 (下記の数字は、「職員研修の状況」の「No」を表している。)	回数
一般 研修	現任研修		0
	主任研修		0
	管理職研修		0
専門 研修	児童指導員研修	1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、 13、14、15、16、17、18、19、20、21 22、23、24、25、26、27、28、29	29
研修参加合計			29

オ 職員研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

(単位：人)

No	月日	内容	主催	人数	延べ
1	4月12日	配慮が必要な児童への対応	調布市子ども生活部児童青少年課	1	1
2	4月19日	配慮が必要な児童への対応	調布市子ども生活部児童青少年課	3	3
3	4月28日	配慮が必要な児童への対応	調布市子ども生活部児童青少年課	2	2
4	4月28日	エビペン研修	調布市教育委員会	3	3
5	4月28日	公的機関の職員が子どもに関わる際の基礎知識	調布市子ども生活部児童青少年課	6	6
6	5月25日	調布市子ども発達センター療育見学会	調布市子ども発達センター	1	1
7	6月3日	東京都立府中けやきの森学園学校公開	東京都立けやきの森学園	1	1
8	6月3日	小学生対象の集団ゲーム実技	調布市子ども生活部児童青少年課	1	1
9	6月17日	障がい児～基本の基	調布市子ども生活部児童青少年課	3	3
10	6月20日	ゲーム依存の理解と対応	東京都及び東京都児童館連絡協議会	1	1
11	6月23日	応急手当の実際	調布市子ども生活部児童青少年課	3	3
12	7月8日	食物アレルギーの基礎知識と緊急時対応	東京都多摩府中保健所	1	1
13	9月28日	東京都立府中けやきの森学園学校公開	東京都立けやきの森学園	1	1
14	10月4日	児童館・学童クラブでの保護者対応	調布市子ども生活部児童青少年課	4	4
15	10月12日	小学生を対象とした室内遊び	東京都及び東京都児童館連絡協議会	1	1
16	10月12日	児童館論「地域で子どもを育てるとは」	調布市子ども生活部児童青少年課	1	1
17	11月1日	気になる子どもとのかかわりかた	東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課	1	1
18	11月8日	心も体もまるごと育てる表現遊び	東京都及び東京都児童館連絡協議会	1	1

19	11月10日	遊びの質を高めるために職員に求められること	東京都及び東京都児童館連絡協議会	1	1
20	11月15日	学童クラブ論	調布市子ども生活部児童青少年課	3	3
21	11月26日	食物アレルギーについて	調布市福祉健康部健康推進課	1	1
22	12月5日	モンテッソーリー教育から学ぶ	東京都児童相談センター	1	1
23	1月19日	行動観察のポイント	調布市子ども発達センター	2	2
24	2月7日	自覚のない児童虐待	東京都児童相談センター	2	2
25	2月7日	コミュニケーションの達人になろう	東京都及び東京都児童館連絡協議会	1	1
26	2月17日	けん玉実技研修	調布市子ども生活部児童青少年課	2	2
27	2月22日	子どもの対応の肝	東京都児童相談センター	1	1
28	3月6日	木工ワークショップ	東京都及び東京都児童館連絡協議会	1	1
29	①8月15日～18日 ②8月25日～30日 ③9月26日～29日 ④11月22日・28～30日 ⑤2月6日～9日 ⑥2月15日・16日・20日～23日・27日・28日	放課後児童支援員認定資格取得研修 学童クラブ運営において必須となる「放課後児童支援員認定資格」取得に当たり、放課後児童支援員の理解等について学ぶ	株式会社リーガルマインド	9	48
研修参加人数合計59人、 延べ参加人数合計98人					

3 放課後子供教室事業「ユーフォー」

(1) 育成目標への取組

ユーフォーは、学校施設内で遊ぶをこと目的としているため、プレイルームや校庭などで安全に過ごし、工作等のイベントや学童クラブとの交流会を通じて異学年の子どもたちが一緒に遊ぶことにより、社会性や想像力を養うことができた。

(2) 重点事項への取組

ア 安心、安全なユーフォーを目指して

プレイルームや校庭（体育館）を使い、多様な遊びを自分で選んで、安全に楽しく遊べる環境作りをした。平成27年度に当法人が受託後は、『子ども

もの安全』に配慮した見守りに重点を置きつつ、児童との信頼関係を構築し、寄り添うことで、安心して利用できる施設づくりをした。

また、ユーフォーで企画した「工作の会」・「ゲーム大会」・「けん玉検定」などのイベントに加え、地域の方々（ユーフォーボランティア）や児童館・学童クラブと連携を深めて、ドッジビー大会・サッカー大会などのスポーツ・工作・ゲーム大会のイベントを学期ごとに実施し、参加したくなるユーフォーを目指したことで、利用児童数は昨年度より多くなった。

イ 障がい児育成

特別支援学級がある小学校ユーフォーに関しては、職員数を増やし、より安全に過ごせるよう対応した。毎日利用する児童や学校休業日にも遊びに来る児童がいた。

また、学校とも情報共有し、同じ目線で関わっていけるよう心掛けていたが、個人情報保護のため学校からの情報が少ないところもあった。

ウ 保護者との育成の共有化

1年生及び特別支援学級の全児童と、希望家庭に「ユーフォー利用カード」を使用してもらうことで、職員は何時に児童が帰宅するのかを把握し、保護者には児童がユーフォーを利用したことを伝えた。また、各施設でユーフォーだよりを毎月発行し、保護者に開設日や行事の内容を知らせた。

エ 「食」への取組

平成27年度から、学校休業日及び給食がない日にユーフォーに弁当を持参することができるようになった。平成28年度は、土曜日や三季休業期間に弁当を持参する児童が昨年度より増加しており、特に夏休み期間は30人程持参してくる日もあった。食物アレルギーの児童を把握し、食品が交ざらないようテーブルを分けるなどの対応をし、事故が起きないように配慮した。

また、エピペン研修に全員参加し注意喚起を行ったため、実際にアレルギーに関しての誤食は1件も起きなかった。

オ 職員の資質の向上

調布市や東京都が主催したユーフォー職員向け研修に積極的に参加し、救命救急講習・アレルギー研修など、自己研鑽に努めた。また、ケガ等が発生したときに、発生状況と原因を検証し、今後の事故発生を未然に防ぐよう改善点を話し合い、職員間で周知を行った。

カ 関係施設との連携

学校内施設を利用していることから、学校と連絡を密にとり、事業を行った。副校長、生活指導教諭と、法人職員であるユーフォーリーダー、コーディネーター、施設長でミーティングや情報交換を行った。近隣の児童館の運営会議に参加する機会も得て、地域ごとに情報交換を行った。

(3) 実績報告

ア 児童の受入れ状況

月別の各ユーフォーの児童受入れ状況は次のとおりである。(単位：人)

	緑ヶ丘	若葉	石原	第三	多摩川	飛田給	富士見台	合計
4月	333	921	433	1,027	804	977	775	5,270
5月	356	728	402	967	706	723	643	4,525
6月	446	897	549	1,200	823	994	873	5,782
7月	471	1,007	531	1,171	899	891	599	5,569
8月	168	407	242	662	545	688	277	2,989
9月	339	772	412	877	468	782	663	4,313
10月	390	712	358	828	513	870	549	4,220
11月	419	650	399	779	433	681	435	3,796
12月	417	759	375	813	498	714	515	4,091
1月	344	427	299	622	332	543	394	2,961
2月	418	456	340	681	377	672	464	3,408
3月	268	461	307	660	445	861	480	3,482
合計	4,369	8,197	4,647	10,287	6,843	9,396	6,667	50,406

イ 児童の健康報告

(ア) 受診ケース

ユーフォー名	月日	性別・年齢	項目	受診先
若葉小	H28.4.19	女 1年生	校庭の雲梯から落下し、鼻と口をぶつけた、鼻血が出、唇の裂傷と腫れを生じ受診した。	整形外科
若葉小	H28.7.15	女 3年生	体育館でジャンプして遊んでいたところ、右足首を捻り、痛みと腫れを生じ受診した。	整形外科

ウ 年間行事報告

一年間に実施した行事は次のとおりである。

項目	内容
工作の会・けん玉検定	各ユーフォーで企画をし、各学期に1回以上行う。ユーフォーで材料を用意し、コマづくりや毛糸のボンボンやミサンガなどの手芸工作、季節にあわせたもの(クリスマスカードや七夕の飾り物など)を児童の発想で作成し、持ち帰った。けん玉検定は、月1回行い、多くの児童が上の級にチャレンジした。
学童クラブとの交流会	学童クラブとユーフォーで交流会を行った。小学校の校庭や体育館を利用し、ゲーム大会や工作、スポーツを通じ交流を図った。

児童館との交流会 (出張児童館)	児童館職員が来校し、サッカー大会、キックベース大会、オセロ大会、ドッジビー大会、けん玉・ベーゴマ遊びなどを小学校校庭やユーフォープレイルームで行った。このことを通じ、児童館からの参加児童とユーフォー参加児童の交流が行われた。
東京都出前講座	東京都職員による出前講座で、ユーフォープレイルームで「目の錯覚による工作」や「静電気の工作」を行い、多くの児童が参加した。
避難訓練	地震、火災想定で行った。児童も参加し、校庭に避難し、身の安全を確保した。地震想定時は防災頭巾をかぶった。避難終了後、参加児童に避難するときに大切な約束事をしっかりと伝えた。
不審者対応訓練	調布警察署員、調布市総合防災課の職員を講師に迎え、不審者対応の基礎知識を学ぶとともに、不審者侵入を想定したシミュレーションを行った。(ユーフォー職員対象)
ユーフォーボランティアイベント	近隣の方がボランティア登録をし、その方々が、「工作」や「お話の会」、バドミントンやミニテニスなどの「スポーツ教室」を開催した。児童の参加人数が多いイベントであった。

エ 職員研修体系

体系		内容 (下記の数字は、「職員研修の状況」の「No」を表している。)	回数
一般研修	現任研修	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13	13
	主任研修		0
	管理職研修		0
専門研修	児童指導員研修		0
研修参加合計			13

オ 職員研修の状況

研修の参加状況は、次のとおりである。

(単位：人)

No	研修名	内容	主催	人数	延べ
1	普通救命救急講習会	救命救急の基礎知識を学び、児童のケガのときの対応を学ぶ。	東京消防庁	16	16
2	上級救命救急講習会 (再講習)	普通救命救急講習より高度な救急救命を学ぶ。	東京消防庁	3	3
3	気になる子供とのかかわり方	発達障害の子供について理解を深め、上手なかかわり方のヒントを学ぶ。	東京都教育庁地域教育支援部生涯学修課	2	2
4	子供理解と子供への接し方	最近の子供の傾向から子供を理解するとともに、放課後子供教室の職員の立ち位置や子供たちへの望ましい接し方について考える。	東京都教育庁地域教育支援部生涯学修課	4	4
5	教育支援コーディネーター・フォーラム	地域教育推進ネットワーク東京都協議会について理解し、2件のケース発表から実践的な取り組み方を学ぶ。	東京都教育委員会	2	2

6	公的機関の職員が子どもに関わる際の基礎知識	子どもに関わる際の基礎的なことを学び、現場に生かしていく。	調布市子ども生活部児童青少年課	7	7
7	配慮が必要な児童への対応	発達障害などの障がいについて理解し、児童への対応を学ぶ。	調布市子ども生活部児童青少年課	4	4
8	障がい児～応用編	ロールプレイング等グループワークを通して対応を学び、今後の育成に役立てる。	調布市子ども生活部児童青少年課	5	5
9	けん玉実技研修	子どもたちのひきつけ方、興味を持続させる方法等を学ぶ。	調布市子ども生活部児童青少年課	13	13
10	子どもたちの心に届くコミュニケーション	小学生を中心として子どもたちについての理解を深め、コミュニケーションのとり方・関わり方を学ぶ。	調布市子ども生活部児童青少年課	7	7
11	つないでいく支援	保護者と学校、就学前の在籍園や支援機関など子どもを取り巻く人たちが支援を「つなぐ」応援会	調布市子ども発達センター	1	1
12	子どもの行動観察のポイントとアセスメント	観察の5つの視点から子どもの行動を観察・記録し、子どもの行動理由を考える。	調布市子ども発達センター	2	2
13	アレルギー研修	食物アレルギーとの付き合い方、基礎、一般的な除去と解除について学ぶ。	調布市福祉健康部健康推進課	4	4
研修参加人数合計 70 人、延べ参加人数合計 70 人					